

# 秩父市立高篠小学校の取組

平成25・26年度  
埼玉県体力課題解決研究指定校  
平成25・26年度  
秩父市教育委員会研究委嘱校

## 1 研究主題

「自ら進んで運動に取り組む、  
健やかな心と体を持つ児童の育成」

## 2 研究の期間（2年次）

平成25年度～平成26年度 2年間

## 3 研究の目的

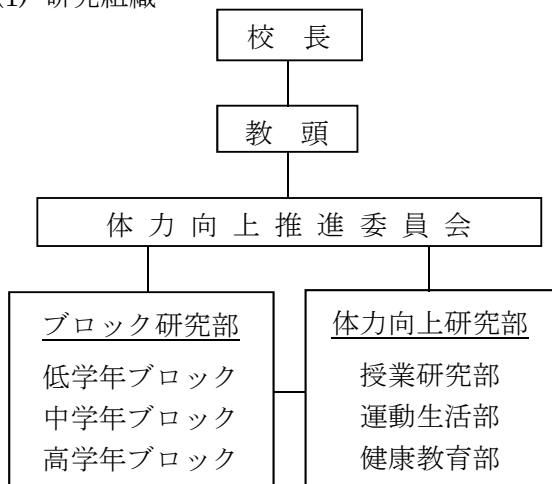
本校の学校教育目標は「心豊かでたくましく生きる子ども」（○学ぶことを好きになろう ○思いやりの心持とう ○運動を好きになろう）である。知・徳・体のバランスのとれた児童の育成を目指し、日々の教育活動を推進している。

本校児童の運動面での実態を見ると、平成25年5月の新体力テストでは、総合評価A+Bの割合が46.4%であった。また、「立ち幅跳び」と「握力」に関しては、県平均を下回る学年があり、「跳躍力」と「握力」が本校のここ数年の課題である。また、健康教育の面においては生活習慣のさらなる改善が課題である。

そこで、本校の研究主題を「自ら進んで運動に取り組む、健やかな心と体を持つ児童の育成」と設定した。また、目指す児童像を「元気いっぱい運動大好き しなのめっ子」とし、体力の向上と運動好きな児童の育成を目指した取組を実践してきた。

## 4 研究の実践内容

### (1) 研究組織



### (2) 各体力向上研究部の仮説

#### ア 授業研究部仮説

体育科の授業において、子どもが「できる」「のびる」体験を積み重ね、運動の楽しさを味わわせる授業を展開すれば学習意欲が高まり、自ら進んで運動に取り組む子が育つであろう。

#### イ 運動生活部仮説

児童の実態を基に環境を整備し、体育授業以外の運動を充実させれば、自ら進んで運動に取り組む子が育つであろう。

#### ウ 健康教育部仮説

身近な健康に関する実践を通し、子どもたちの理解が深まる指導法を工夫したり、健康な生活をめざす生活習慣の改善や家庭との連携を図ったりすれば、健やかな心と体を持つ子が育つであろう。

### (3) 各体力向上研究部の取組

#### ア 授業研究部

- (7) 発達段階に応じた指導法の工夫・改善や年間指導計画の見直し
- (8) 高篠小「体育授業の基本」を作成することによる学習規律の確立
- (9) 自校体操（しなのめ体操）による学校統一の準備運動・補助運動の実施



- (10) 発達段階に応じた思考力・判断力・表現力等の育成と言語活動の充実

#### イ 運動生活部

- (7) 児童の運動実態調査の実施とその分析
- (8) 生活体育の環境整備「高小運動がんばりカード」の作成と実施
- (9) 業前運動の工夫改善（毎週木曜日ロング朝遊び：朝遊び補助員を活用した外遊びの奨励）
- (10) 業間運動の工夫改善（毎週金曜日わくわくタイム実施）

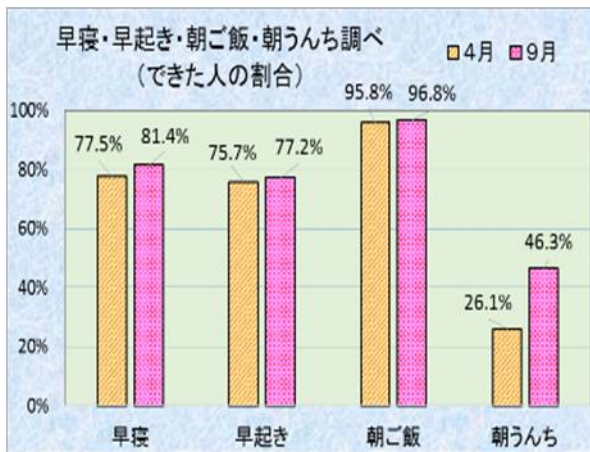


(f) 体育部教師と運動委員会児童による鉄棒教室（業間休みに年12回実施）



ウ 健康教育部

(7) 児童の生活実態調査とその分析（早寝、早起き、朝ごはん、朝うんち調べ）



「早寝・早起き・朝ごはん」調べを5年間継続して実施している。また、朝うんち調べを3年前から始めた。今年度の4月と9月を比較すると、すべての項目において、できた人の割合が増加した。朝ごはんは、ほとんどの児童しっかり食べて登校することができた。特に朝うんちをする児童の割合が26.1%から46.3%に伸びた。

(i) 食育の積極的な推進



1年「給食試食会」、2年「さつまいも作り」、3年「梅干し作り」、4年「食育授業」、5年「稲作」、6年「朝食作り」等、食育指導も充実している。

(v) 健康教育の充実



外部講師による、親子で学ぶ「おなか元気教室」、学校医による「歯科講話」、学校薬剤師による6年生対象の「薬物乱用防止教室」、年3回の「学校保健委員会」を実施した。

(エ) 保健学習・保健指導の充実



発育測定の日、学級毎に養護教諭が紙芝居で体の学習や生活指導をした。性教育は全学年実施し、養護教諭が連携したチーム・ティーチングも行っている。その他、全校向けの歯みがき指導や、学年毎の歯みがきミニ指導も行っている。

(オ) 児童の活動



給食委員会（食育の劇、給食感謝会）



保健委員会（歯みがきテスト、清潔検査）

給食委員会は、食育の劇を行ったり、給食感謝会を行ったりしている。

保健委員会は、風邪予防の劇や、清潔検査などを行っている。

(カ) 掲示物の充実



保健室の周りは掲示物でいっぱいです。

(4) 授業実践

「絆の授業10」を目指した各ブロックの研究授業の取組

絆の授業10

- ① いつも笑顔で子どもたちを迎えます。
- ② 拍手やハイタッチでムードを盛り上げます。
- ③ 少年のような新鮮な感覚で教材研究をします。
- ④ 子どもたちとのコミュニケーションを大切にします。
- ⑤ 子どもたちへのねぎらいの気持ちを大切にします。
- ⑥ 発問や言葉がけで、子どもの気づきを大切にします。
- ⑦ リズムやテンポで運動量を確保します。
- ⑧ 発表や教え合いの場面を重視します。
- ⑨ 評価を大切に、深い感動や意欲をかきたてます。
- ⑩ 家庭への情報発信で絆を深めます。

ア 低学年ブロック

1年生：ボール投げゲーム（ゲーム）

絆の授業重点ポイント ②、⑥、⑦、⑨



イ 中学年ブロック

3年生：跳び箱運動（器械運動）

絆の授業重点ポイント ⑥、⑦、⑧



4年生：セストボール（ボール運動）

絆の授業重点ポイント ⑦、⑧、⑨



ウ 高学年ブロック

5年生：マット運動（器械運動）

絆の授業重点ポイント ②、④、⑧



6年生：バスケットボール（ボール運動）

絆の授業重点ポイント ⑦、⑧、⑨



(5) しののめ台の整備と活用

本校の校庭東側にある高台（しののめ台）を活用した体力向上の取組を行っている。体育授業に、しののめ台の登り下りを取り入れたり、「しののめクロスカントリーカード」を活用したりすることにより、子どもたちは休み時間に、しののめ台に登って遊ぶことが以前より多くなった。



しののめ台の整備は、夏休みのPTA奉仕作業と地域の方々に参加していただいている「しののめ台倶楽部」の奉仕作業により、子どもたちが安全に活動できるようにしている。



## 5 「絆の授業への道」発行

職員向けの校長だより「絆の授業への道」の発行により、研究の方向性をより明確にし、「絆」に焦点をあてた授業改革に取り組んだ。



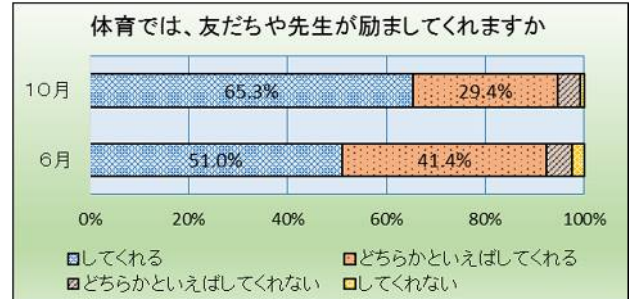
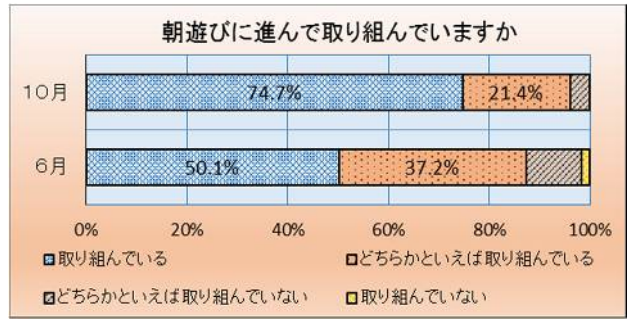
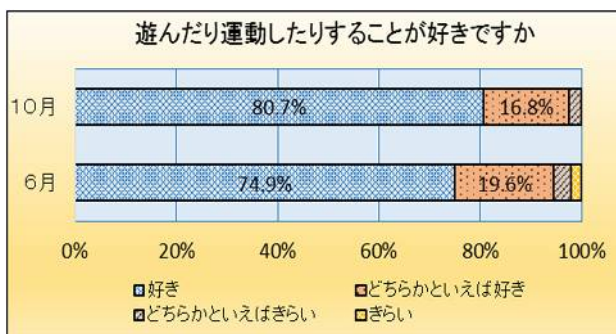
## 6 「体力向上だより」の発行

本校の体力向上に関する取組を家庭や地域に広く伝えることにより、取組への理解を得るとともに、学校・家庭・地域が一体となって児童の体力の向上を目指した。

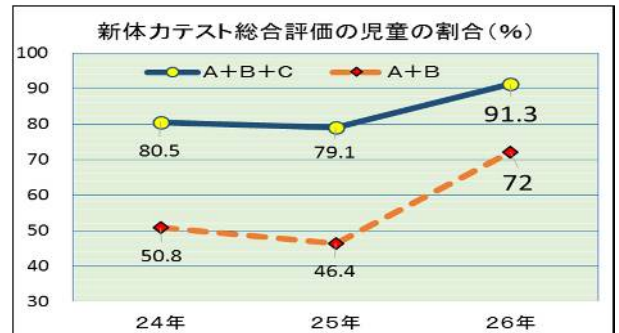


## 7 研究の成果

(1) 「絆の授業10」を授業に取り入れたことにより、体育授業の中で友だちや先生の励ましの声が多くなり、雰囲気の良い授業となった。その結果、朝遊びを進んでやる児童と運動好きな児童の割合が増えた。



- 教具や環境面を充実したことにより、運動の生活化が図られ、子どもたちが意欲的に運動に取り組むようになった。
- 「早寝、早起き、朝ごはん、朝うんち調べ」を継続的に取り組むことにより、家庭と協力しながら、家庭と協力しながら、生活習慣の改善が図られるようになってきた。
- 様々な体力向上に関する取組を行った結果、新体力テストの総合評価において、平成25年度は低下傾向であったが、平成26年度は大きな伸びが見られた。



## 8 今後の課題

- 「元気いっぱい 運動大好き しののめっ子」の育成を目指し、今後も体育授業の工夫改善に取り組んでいく。
- 児童自らが、運動や遊び方工夫して、楽しみながら積極的に体力づくりができるよう、運動の生活化を図っていく。
- 心と体の健康づくりにおいて、保護者や児童の意識は高まってきたが、まだ望ましい態度や習慣が身に付いていない面もあるので、今後も家庭と連携して取り組んでいく。

(文責 宮原 宏成)